

## 令和2年度第2回「あいち森と緑づくり委員会」

- 1 日 時 令和2年9月2日（水）午前10時30分から
- 2 場 所 愛知県自治センター4階「大会議室」
- 3 出席者 あいち森と緑づくり委員会（委員8人）  
肘井委員長、岡田副委員長、伊藤委員、唐澤委員  
斉藤委員、竹内委員、田實委員、中川委員、  
県（事務局）  
農林基盤局、総務局、環境局、都市整備局、建設局
- 4 議事（要約）等以下のとおり
  - 1) 農林基盤局長あいさつ
  - 2) 委員自己紹介
  - 3) 委員長・副委員長選任
  - 4) あいち森と緑づくり事業の取り組みについて
  - 5) 議題  
あいち森と緑づくり体感ツアーについて

○あいち森と緑づくり事業の取り組みについて  
＜事務局 資料1に基づき説明＞

（委員長）ありがとうございました。

概要を説明していただきましたが、ただいまの説明に対し何かありますでしょうか。

無いようでしたら、議題に入りたいと思います。あいち森と緑づくり体感ツアーについて、事務局より説明をお願いしたいと思います。

○議題 あいち森と緑づくり体感ツアーについて  
＜事務局 資料2に基づき説明＞

（委員長）ありがとうございました。

今後の体感ツアー及び新型コロナウイルス感染症の影響下での今年度の体感イベントについて、ご説明いただきました。この件について、何かご質問、ご意見等ありましたらお願い致します。どんなことでも結構です。

（委員）人工林の間伐体験と木工キットの製作となっていますが、講師はどのように選任しているのでしょうか。

(事務局) 講師につきましては、県の林業普及指導員の職員を予定しており、現地にて研修講師としてお手伝いや指導をさせていただく予定でございます。

(委員長) ありがとうございます。他にございますか。

(委員) 体感ツアーの開催方針について、今年度のように事情が特殊な場合に限って、こうした体感イベントとして開催することとします。資料1枚目にある今後の開催方針では80名のバスツアーを組む方針ですが、私としては、バスツアーは40名として、イベント的に、現地集合の別の企画としてのイベントも毎年行うと良いと思うのですが、ご検討いただけないでしょうか。

(事務局) バスツアーとは別に、さらに加えて現地集合のイベントもどうかのご提案ですが、今すぐにはここで回答が出来ませんが、検討してまいりたいと思います。

(委員長) よろしいでしょうか。

(委員) 今年予定されている間伐もすごくおもしろいと思います。私も、今年1月頃、トヨタの森で間伐体験をしたのですが、大人ばかり20名ほど参加し、皆、嬉々として楽しんでいました。

もう一つのイスをキットで作る工作についても楽しいと思います。私もよく緑化センター等で色々な物を作成しますが、それも楽しいです。ですが、せっかくの森と緑づくりの体験ですので、次に繋がる体験が出来るともつといいと思います。

これもトヨタの森での経験ですが、カエルの産卵のための池づくりを今年2月頃に行いました。大の大人が冬の寒い中で汗かきながら必死に作業しました。もちろん下準備はしてありましたが、皆、本当に楽しそうでした。なぜそれが良いかと言いますと、自分が作ったものがその後、どうなったのかなと見に行きたくなります。次に同じ場所へ行った時に、あれはどうなったのかな、カエルが卵を生んでくれたのかなと。池づくりが良いと言っている訳ではないですが、遊歩道の一部、例えば、10メートルを「今回、みんなで直しましょう」「作りましょう」とすると、その後どうなったのかなと、また行ってみたい、見てみたいという気が起こると思いますので、また、そういった企画も、より大変になるかもしれませんが、考えていただければと思います。

(委員長) ありがとうございます。何かコメント、ありますでしょうか。

(事務局) 貴重なご意見ありがとうございます。

リピーターを作るというのも大切なことだと思いますので、先ほどご提案いただいた別イベントも含めまして、リピーターの増えるような内容もあわせて検討してまいりたいと思います。

(委員長) ありがとうございます。他にありますか。

それでは少し時間より早いですが、予定された議題は以上になります。まだ少し時間があります。せっかくの機会ですので、本日の議題を含めまして、現在の取り組み、その他この事業全般について何かご意見や今後こうしていくといい等のご意見ありましたら、伺いたいと思います。どんなことでも結構です。

(副委員長) 僕は都市部の緑地をメインにしています。昨年、いろんな形で意見聴取させていただいた中で発言させていただいたり、会の中でも発言させていただいたりしたのですが、奥山はどうやって整えるかが非常に明快で、里山も人々の森林へのかかわり方が割と分かりやすく、方向性がありますが、都市の緑の整え方については、最初にあいち森と緑づくり税を立ち上げた時に、都市部はこういうものに対し補助をしていきたいと思いますと項目が並びました。ある意味、都市は非常に多様で、それでも少しでも希望された人や民間組織でも申請していただければ補助金を出していきますよ、と対応をしてきました。

だけど、これだけ自然に対して重要な時期なのに、地方行政でも予算が取れないからこの森と緑づくり税を頼りに申請している行政もあったり、民間の小さな商業施設が申請して、補助金が出たり、整備されたりしています。

大きな話として、在来種等への考慮がいる中で都市部の緑の整え方の大きな指針、例えば里山ではなく都市部に残った森林の買い取り等など、都市部の資産となるような森のあり方みたいなものを基本的にどっかで視点をきっちり持つべきだと考えます。また活性化として小規模団体の申請に対し緑の環境が整っていくため補助金を出すのは、それはそれでいいと思います。

去年も里山に対して発言していますが、都市森（としもり）とか、いわゆる都市生活者にとっての庭的な自然林の整え方みたいなのは、一般的な里山整備とはまた違うものです。

昨年度、補助の対象に市街化区域内の森林も項目として入れていただきました。本日の局長挨拶にも「都市部の緑」の話がありましたが、大きな目指すべき視点を、例えば、資産として残るものの補助の仕方と、小規模で民間で実施される人への補助の仕方について、在来種の扱いや景観木の扱いなどその辺りの視点をしっかり持つ必要があると思います。生態環境の委員の方々もおみえなので、都市部の視点と、資産として残る都市・市内の既存の緑地の保

全の仕方について、大きな視点が必要だと思えます。

また、去年の植樹祭の時に参加させて頂いて、その後、再度、ご案内いただいた時に、ある意味もう「植えるところがない」という話がありました。都市部の森林がはげ山だった頃に、緑の活性化のためにどこもかしこもできるだけ植えていきたいと思いますという時期と、現在の森林飽和という言葉が出ているような森の繁殖の仕方の時期に、都市部や大きな県の公園等をどうやって整えていくのか考える必要があると思えます。今まで公園等が出来たら、いろんな形で植樹祭が行われてきているのですが、その辺についても何か大きな視点を、次のこの委員会で、皆さんとの議論ができればと思っています。ちょっと長くなって失礼しました。

(委員長) ありがとうございます。他にご意見ありますか。

(委員) さきほどの体感ツアーにも関係しますが、特に体感ツアーはこの事業を県民にPRするというのが目的になっていると思えます。今年は特に参加者が少なく40名を予定されていますが、イベントや今後行う体感ツアー等の様子を動画に撮って、簡単に編集して、配信するというPRの方法があってもいいのかなと思いました。今どきはスマホでも簡単に動画とかも撮れますし、動画で様子を簡単に収録して、まとめていただけるといいと思えます。今まで私も動画撮影・編集をやったことがなかったのですが、今回このコロナ禍で、動画を作成する機会があり、簡単に自分の研究の紹介動画等をムービーで撮って、編集してみると、意外に楽しいし、反応もありますので、そういう取組を行ってみるのもいいのではと思いました。

(委員長) 大変貴重なご意見だと思えます。何かコメントございますか。

(事務局) ありがとうございます。やはりPRはすごく大事だと事務局でも考えていまして、今のご提案していただいたことを、早速、今回の体感イベントから、試みたいと思えます。

PRに関しましては、森と緑づくり事業だけではないですが、昨年度開催いたしました全国植樹祭のマスコットキャラクターの森ずきんちゃんを、そのまま、あいちの森と緑づくりのマスコットキャラクターとして引き継ぎ、今、森と緑づくり推進室でPRを行っております。その森ずきんちゃんのフェイスブックも立ち上げ、様々なイベントや広報したいこと等を掲載しております。森ずきんちゃんのフェイスブックに載せられるかどうかは別にしまして、SNS等を活用していくことは大変重要なことだと思えますので、今のご提案も、うまく活用できるように検討してまいりたいと思えます。ありがとうございます。

います。

(委員) 先ほどの委員と似たような意見ですが、配布資料の写真を見ると、体感ツアーの参加者は高齢の方が多くのように思います。僕もこういう体験ツアーの様なことを行うのですが、高齢の方というよりも20代、30代、40代の若い世代に興味を持ってもらい、子育てしている方だったら、自分の子供たちに「こんな体験したんだよ」とか、「一緒に行ってみよう」と誘ってくれることが今後に繋がってくるのかと思っています。

動画・YouTubeにアップする、SNSに発信するというのも、それを参加した人自身に行ってもらうようにしていけば、より効果が出てくるのかなと思っています。

森ずきんちゃんのフェイスブックも、僕もシェアしていますが、やはり見てくれている人がいないと。フェイスブックに載せただけでは意味がないので、どうやって見てもらうか、関心をもってもらうかを考えると、若いSNSを使いこなしている世代を巻き込んでいかないと発展はしないのかなと思っています。

(委員長) ありがとうございます。よろしいですか。

(事務局) はい。ありがとうございます。その辺も含めて検討してまいりたいと思います。

(委員) 私は最初の自己紹介で話したように、どちらかという園芸関係ですが、山とか海とかにも繋がりがあり、先日、豊根村に行って来ました。道中は山道で、また大雨の後だったので土砂崩れの跡があって、帰りも雨がたくさん降って警報が出て、流されるんじゃないかと思うぐらい怖かったです。それでも私は、山は本当に好きなんです。道中、スギ等の針葉樹が育ちすぎていて、これは今後どうするんだろうと思いつつ帰ってきました。ただ、やはり澄んだ空気とか、風景がいいので好きで、また、こういう所でイベント等何かやれるといいと思っています。

それともうひとつ。新型コロナの関係で、皆さん家にみえるので、今、非常にガーデニングや畑づくりに興味を湧いているようで、私の所にもそういった問合せがたくさん来ています。ちょうどコロナ禍で男の方も家にみえるので、特に畑や庭仕事なども。友人が貸し農園をやっていますが、そちらにも問い合わせがたくさん来ているという話もあり、そういう風に緑に興味を持っていただく、ちょっと強引ですが、そういう所からお話ができたらいいかなと考えております。

(委員長) ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

(事務局) 今のご意見と、一番最初の副委員長のご意見について、副委員長の言われた「都市の緑」につきましては、非常に重要なことですが、なかなかまとめ方が難しいことと理解しております、我々も色々考えていきたいと思えます。副委員長始め、委員の皆様の方も何か意見等あれば、ご指導していただければと思いますので、今後も引き続きよろしくお願ひします。

委員からの農園等のお話については、副委員長からも市街化区域農地という話もいただきましたので、その辺も併せて、また今後考えていきたいと思えます。委員の皆様から積極的にご意見いただきたいと思えますので、どうぞ、よろしくお願ひします。

(委員長) ありがとうございます。

(委員) 体感ツアーは、今年はこのようなご提案で良いと思えますが、私たち委員の視察も今回、新型コロナで中止になってしまったのが残念です。視察で現地を見せていただいたり、現場の方の声を聴くことは、私たちも議論する中でごく有益な情報になっていて、それも大事なことと思っています。

何か事務局の方で、視察に代わるような現場の声を吸い上げたり、もう少し私たち委員が様子を体感できることを何か考えているのであれば教えていただきたいです。

(事務局) 今すぐというのはまだ考えておりませんが、今年度はまだありますので、今後、検討させていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

(委員) ぜひ、ご検討ください。

例えばですが、今回チラシをいれていただいた「木の香る都市づくり事業」の施設を、そこだけ現地集合で見に行くとか、詳しい委員に説明いただくのもいいのかもしれないし、単発で、ツアー型にしくなくてもそういったことが出来れば有り難いなど。また、この委員のメンバーであれば、オンラインを使う手もあるかなと思っています。

例えば、新型コロナ禍でも、オンラインでの自然観察会にチャレンジしている私の仲間のインタープリターもたくさんいますので、そういったオンラインを使って、私たち委員にも現地を見せていただくことも検討していただけるといいと思えます。

(事務局) ありがとうございます。今回、昼から、木の香る都市づくり事業や、環境局、建設局で実施した現地を見ていただきたいと計画しておりましたが、大変、残念ながら新型コロナ禍で断念しました。

今後も新型コロナの影響はありますので、こういった形でできるかは検討するとして、オンラインでの自然観察会もあるとのことですので、何か出来ると思います。

○配布した「木の香る都市づくり事業」の説明。

第2回木の香る都市づくり事業の応募を現在、募集中ですので、委員の先生方にもお知り合いの方やご興味がある方がお見えでしたら、ぜひPRをしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(委員長) ありがとうございます。では、次に。

(委員) 人工林の間伐の話ですが、今年度、コロナの影響で、木材の価格、原木価格がだいぶ下がってきていて、森林組合等ではあまり民有林から丸太を出さないようにとか、素材生産業者の方も今年度はこんな具合では採算が合わないのもう材を出さない等があり、結構、この森と緑づくり事業の方に重きをおいて施業をしているという話を、私の周りでよく聞いています。

おそらく来年度ぐらいまで、確実に木材価格への影響があるので、そうなった時に林業事業体は、ただでさえギリギリのところで行っている中で、今年度はまだ現場が動いていますが、また一段と苦しくなってくるのが想定されます。現場や各地域の状況のヒアリングは必要だと思いますが、来年度に向けては事業の出し方を少し変える、施業地を多めに出来るような工夫をする、新型コロナ対策として緊急的に少し柔軟な対応を取っていただくと各地の事業体も非常に助かるのではないかと思います。

国の造林事業のメニューも、今年度については普通は、切り捨て間伐の対象としないところまで少し枠を緩めて、極力、施業地を確保できるように工夫されていますので、愛知県としても、少しそういった目を見ていただけるとありがたいと思います。

(委員長) では事務局どうぞ。

(事務局) ありがとうございます。今年度は国も利用間伐がなかなか難しいため、保育間伐に施策をシフトしております。あいち森と緑づくり事業の人工林工事の発注につきましては、事業体の皆さんに保育間伐をしていただくように、工事でも早期発注に努めて、なるべく工事請負費も色々工面し、たくさん間伐ができる

ように努力してまいります。

(委員長) それでは、予定の時間がまいりましたので、本日の会議は以上とさせていただきますと思います。

本日は非常に重要なお意見を、短時間でしたが、たくさんいただきましたので、今後の委員会で議論していきたいと思います。事務局の方から何かご連絡はありますでしょうか。

事務局より、次回の委員会に向けた連絡事項を伝えて終了。